

蒲生さんの花壇

林 佳世子
HAYASHI Kayoko

東京外国語大学 学長
Tokyo University of Foreign Studies, President

Quadrante, No.24 (2022), p.15.

蒲生さんとは本部管理棟5階にあった学長特別補佐の部屋でよく話をした。彼は立石学長の時代の点検評価の担当で、その道のプロといってもいいほどだった。私は副学長をしていたころのことだ。ただ、任期の後半は病気の話が多くなった。体調を崩され、入院された話も伺った。明るく、大柄で、自分よりずっと若い蒲生さんから病気の話を書いてもピンとこなかったが、話を聞くにつれ心配になった。私が学長を務めることになったとき、続けて点検評価の仕事を引き受けていただきたかったが、何よりまずは治療に専念してね、という話をしたことを覚えている。そして、その後は、夕方、駐車場のそばにある喫煙場の近くで、立ち話をすることが多くなった。引き続き、大学のこと、学生のこと、そして時々病気のことが話題になった。

そういう中で、花壇の話もでてきた。蒲生ゼミの学生たちが大学に花を植えようというのでぜひ実現したい、という話をしてくださった。花壇に花を植えたり、研究講義棟の入り口に鉢植えを並べたりしよう、という提案だった。自分が車で買い出しに行きますよ、とも言ってくださった。すてき、すてき、ぜひ、ぜひ、と盛り上がったものの、間もなくコロナ禍が広がり、実現にいたらぬまま、蒲生さんの訃報に接した。

今、本部管理棟の前の花壇に色とりどりの花が咲いているのに、気が付かれただろうか。蒲生さんの遺志は、広報社会連携室の面々に受けつがれ、室員の飯塚さんや高坂さんのイニシ

アチブで学生団体「TUFS ガーデニング部」ができ、彼らが植えたパンジーやストックの花が、きれいに花壇で咲いている。やがては研究講義棟の入り口にも鉢植えをおきたい。

笑顔の蒲生さんにこの花を見てもらえなかったことが残念でならない。でも天国からみられているかな、とも思う。いつも学生のこと、大学のことを気にかけていた姿が忘れられない。どうか、安らかに。ご冥福を心から祈ります。

